

大学の世界展開力強化事業(2018年度選定) 関西大学 取組概要

【事業の名称】(選定年度2018年度・(タイプB)
グローバル・キャリアマインドを培うCOIL Plusプログラム

【交流推進事業の概要】

本事業では、本学が目指すグローバル人材を育成し、また他方で本学の多様な学部・研究科の専門性にも対応できるよう、①「言語・異文化理解重点型」、②「専門性重点型」、③専門性重点型の発展型である「サーティフィケート取得重点型」の3つのトラックを設け、COILメソッドを活用して米国の大学との間でPBLを主体とした共修学習活動を実施する。さらに留学期間中に就業体験、企業訪問、専門のテーマに沿った授業の受講など、多彩な活動に参加する。これにより、学生が自らの将来の可能性を国境や言語、文化の壁を乗り越えた視点(マインド)で自らのキャリアを考えることができるよう支援する。



【交流プログラムの概要】

総合大学ならではの多様な学生の成長に資するべく、COILメソッドを活用しながら、上記のトラックごとに異なる学びや経験を提供する。派遣・受入ともに、短期型の留学体験、中長期型のラボインターンシップ、長期型の資格取得を目指すプログラムを実施する。

【本事業で養成する人材像】

グローバル・キャリアマインドの醸成を目指す本事業では、獲得した(あるいは獲得途上の)知識・能力を、参加学生一人ひとりが仕事(ワークキャリア)の現場に応用する機会が与えられている。このプロセスを通じて、本学が目指すグローバル人材像である「高度の言語運用能力」「実践的コミュニケーション能力」「課題解決能力・考動力」「国際適用力」「異文化理解力」「専門的知識」を身に付けた人材を養成する。

【本事業の特徴】

本学では、大阪府下の自治体、民間組織、金融関係企業、経済団体などとコンソーシアムを設立し、「留学生住環境・就職支援事業」及び「留学生就職促進プログラム」の2つのプロジェクトを運営している。それらを通じて国内外に所在するグローバル企業での就業体験、企業訪問、PBLを実施してきた有機的な関係性を生かして、より実践的な「グローバル・キャリアマインド」の醸成を目指す。

【交流予定人数】

	2018	2019	2020	2021	2022
本事業におけるCOIL型教育の受講者数(日本人学生)	275	275	450	625	825
本事業におけるCOIL型教育の受講者数(外国人学生)	330	330	540	750	990
学生の派遣	2	65	82	90	91
学生の受入	5	21	26	37	37

大学の世界展開力強化事業(2018年度選定) 関西大学 取組概要

【事業名称】(選定年度2018年度・(タイプB)
プラットフォーム構築プログラム

【プラットフォーム構築の概要】

COILは北米ではニューヨーク州立大学のSUNY COIL Centerを中心に広がり、欧州諸国でもUnicollaborationなどの団体がオンライン上の協働学習を活用したVirtual Exchangeに着手してきているなど、実践事例が多い。一方で、日本国内ではようやく普及が始まったばかりであることから、より正しい理解を浸透させる必要がある。そこで本事業では、日米間のCOIL型教育実践を促進する基盤拠点(プラットフォーム)として「JPN-COIL協議会」を組織し、その事務局として本学内に「Institute for Innovative Global Education (IIGE)」を設置する。JPN-COIL協議会は、今回の採択9大学の他、参画を希望する大学等へ門戸を開き、各大学機関が個別に実施しているCOILの取組に関する内容を共有・集約・活用し、後述のミッションを遂行する。



【具体的な計画内容】

- ①COIL型教育実践の日本国内での普及
- ②各科目担当者を対象とした、教育学・IT・日米間の関係構築といった多側面での支援提供
- ③米国大学とのCOIL科目のマッチングなど、多層な交流機会の提供
- ④COIL交流事業の効果検証及び社会からの評価を把握し、さらなる改善のため、PDCAサイクルを実施
- ⑤COIL事業に参加した学生へのフォローアップ調査によるグローバル人材育成への効果検証と今後の課題の洗い出し
- ⑥COIL型教育の他分野への実装の検討

JPN-COIL協議会は専門家集団や海外大学へのネットワーク、学生交流事業のプラットフォーム(UMAP等)との共同体を結成し、その連携の力で取組を実現する。また、UMAPの単位互換ガイドラインも活用し、質保証を伴った学生交流を実現させる。

【本事業の特徴】

本学では2014年にKU-COILセンターを設置しており、アジア地域でのCOILの普及・推進を担う組織としてこれまでに培った経験を元に、これを進化させ、他大学にも発展させる取組を行う。

本事業を推進するため、国内外の各種機からの以下のような支援において協力体制を構築する。

- ①教育・Webinar開発支援、コンテンツの開発・トラブルシューティング支援
- ②効果検証・分析調査支援
- ③米国におけるカウンターパート開拓及びCOILに付随する学生モビリティ支援、COILプロモーション支援
- ④次世代COIL型教育の開発支援
- ⑤教育の質保証・単位互換支援

さらに、互いの教育リソースをそれぞれの機関が活用し、相乗効果を生み出すことで、近未来に地球規模で活躍する人材の育成を可能とする新しい越境的国際教育(Cross-Border Education)のモデルの提唱を目指す。